

特集 水害に備える

Chapter 1 "大河津分水 令和の大改修"を知る

近年、集中豪雨やゲリラ豪雨など、異常気象が全国で頻発しています。それは、燕市においても例外ではなく、令和元年10月、千曲川などの信濃川上流域で降った大雨により、大河津分水で観測史上最高水位となったことは記憶に新しいところです。

信濃川の水を海へ流すことで、越後平野を洪水から守る大河津分水では、激甚化する豪雨に対応するため、「令和の大改修」と呼ばれる大工事が行われています。工事では、老朽化している第二床固の改築、河口左岸の山地部の掘削などが行われています。

この大改修が完了すると、海に流すことができる水の量が増え、安全性がより向上します。

大改修はなぜ必要？

気候変動などにより洪水が激甚化しています。大河津分水で海に流すことができる水の量を増やすため、川幅を広げる必要があります。大河津分水が通水した100年前は、山地になっていた河口部を大きく広げられず、今日に至るまで水位が上がりやすい状況になっています。また、老朽化している床固の改築や野積橋の架け替えを行います。

改修するってどんな？

工事が完了すると、過去最高水位を記録した令和元年の

洪水と同じ状況となった場合でも、水位を約2メートル下げ、より安全に流すことができます。また、大河津分水だけでなく、長岡市など上流の水位を下げることにつながり、信濃川全体の安全性が増すこととなります。

工事の進捗状況は？

河口部周辺の工事は令和14年完了を目指しています。工事は順調に進んでおり、3次元データの活用やICTなどの新技術を取り入れていきます。工事については、「にとこみえ〜る館」で紹介していますので、ぜひ、足を運んでみてください。

Interview

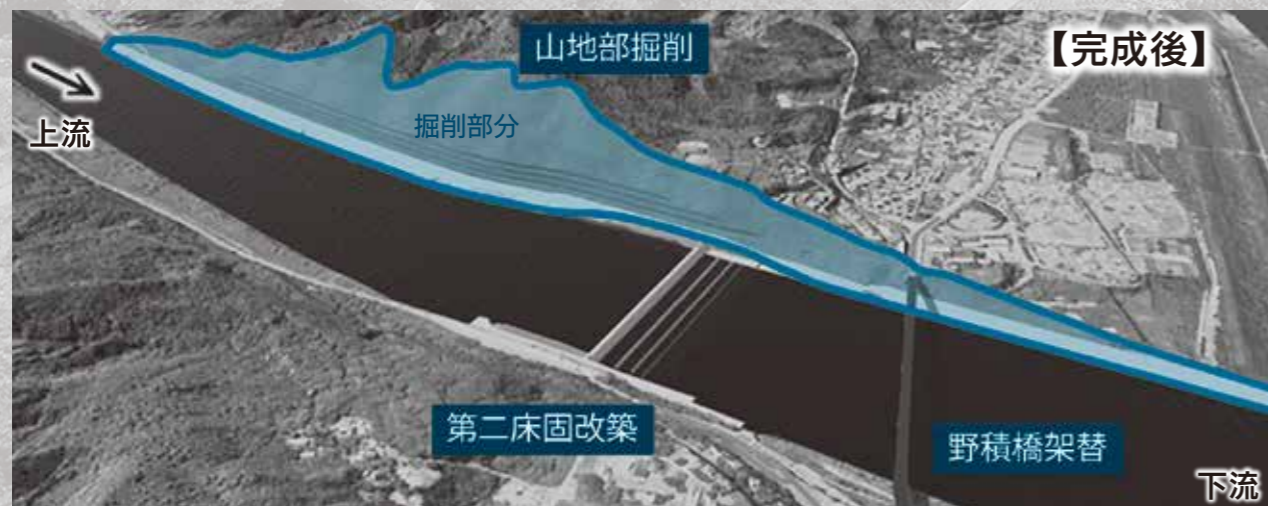


国土交通省 北陸地方整備局
信濃川河川事務所
いまい まこと
今井 誠 所長

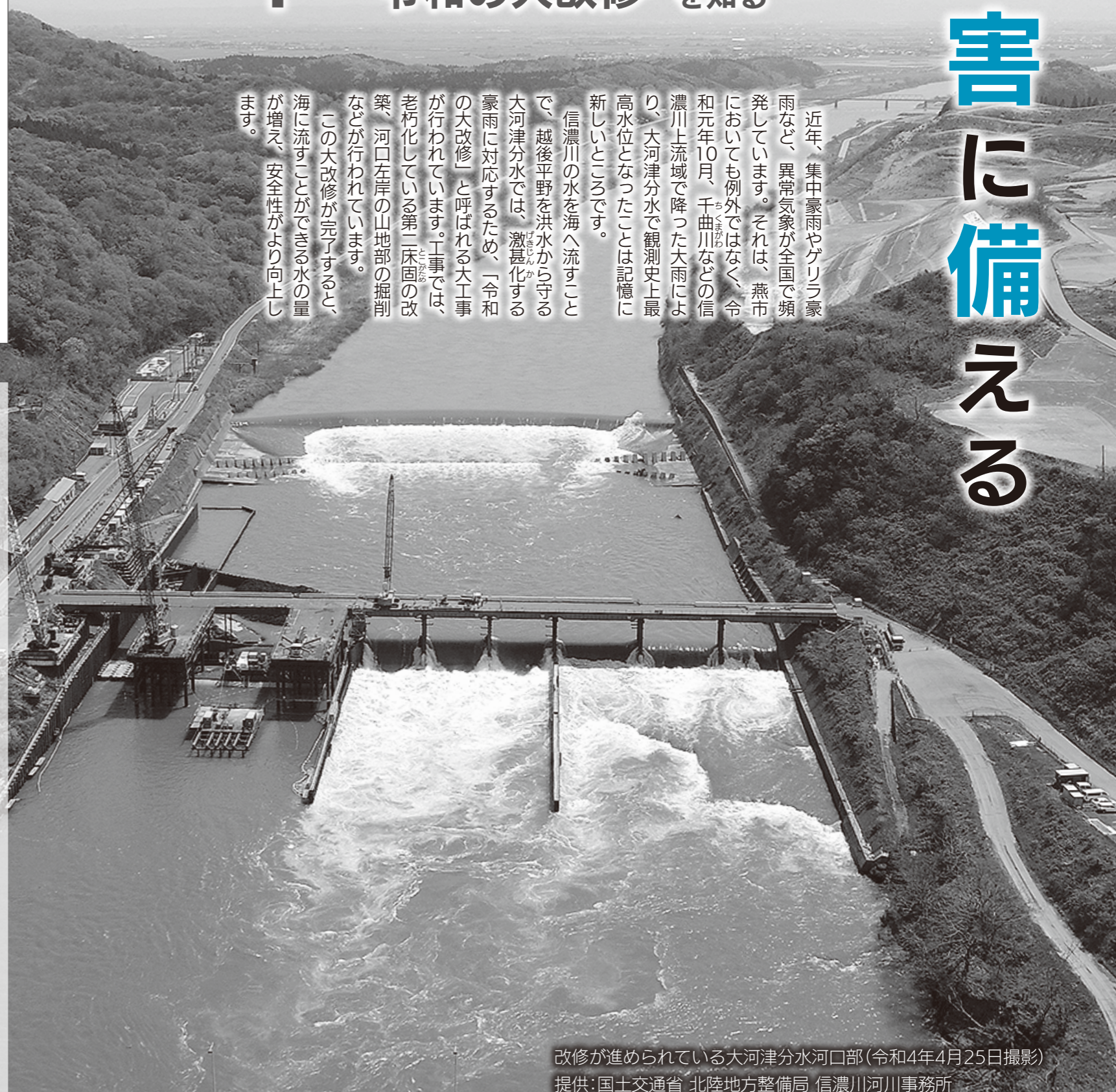
にとこみえ〜る館
公式 Twitter ▶



※床固…川の水流により、川底が削れてしまうことを防ぐための施設。



▲河口付近の川幅を、現在の約180mから約280mに広げることで、海に流す水量を増やすことができる。



改修が進められている大河津分水河口部(令和4年4月25日撮影)
提供:国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所